

ガーデンシンク クラッシー シンプルタイプ

※施工後は必ず施主様に取扱説明書をお渡しください

この度は、当社商品をご購入いただき誠にありがとうございます。

商品を正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。また読み終わった後も必ず保管してください。

安全に使っていただくために

- 天板を持って、持ち上げたり、移動させたりしないでください。破損する恐れがあります。移動するときは、フレームを下から持ち上げておこなってください。
- 商品に寄り掛かったり、のぼったり、ぶら下がったりしないでください。破損する恐れがあります。
- 寒冷地用製品ではありません。凍結の恐れのある地域では、別途水抜き栓を設置し、配管内の水を抜いてください。
- 水栓（蛇口）先端の泡沫金具は、凍結により破損しやすい部品が内蔵されています。凍結が考えられるときは、使用後に、泡沫金具内に水が残らないようにタオル等で吸い取っていただくか、泡沫金具ごと取り外して凍結しない場所に保管するようにしてください。破損してしまったときは、お近くのホームセンター等で内部部品をお買い求めください。（メーカー：(株)カクダイ。品名：泡沫内芯。品番：0792。）
- 陶器に熱湯を注がないでください。また、陶器に硬いものを落とさないでください。破損する恐れがあります。
- 陶器にひびが入ったり、割れたりした場合、破損部を素手で触らないでください。ケガをする恐れがあります。
- 陶器にひびが入ったままで使用しないでください。ケガをする恐れがあります。
- 砂、土が付いたまま洗わないでください。排水管が詰まり、排水不良の原因になることがあります。
- 炊事や洗濯などから排出される生活排水は、設置した地域の法令に従い、適切な排水工事を行ってください。
- 製品表面は塗装仕上げですので、衝撃や擦れなどにより欠けたり、はがれたりする恐れがあります。取り扱いには十分にお気を付けください。
- 古木から型を取って製造していますので、寸法にはバラつきがあります。また天板表面などに凹凸があります。ご理解の上、ご使用ください。
- 製品の特性上、表面に気泡がある場合があります。また、手作業での色付けのため、色にはバラつきがあります。

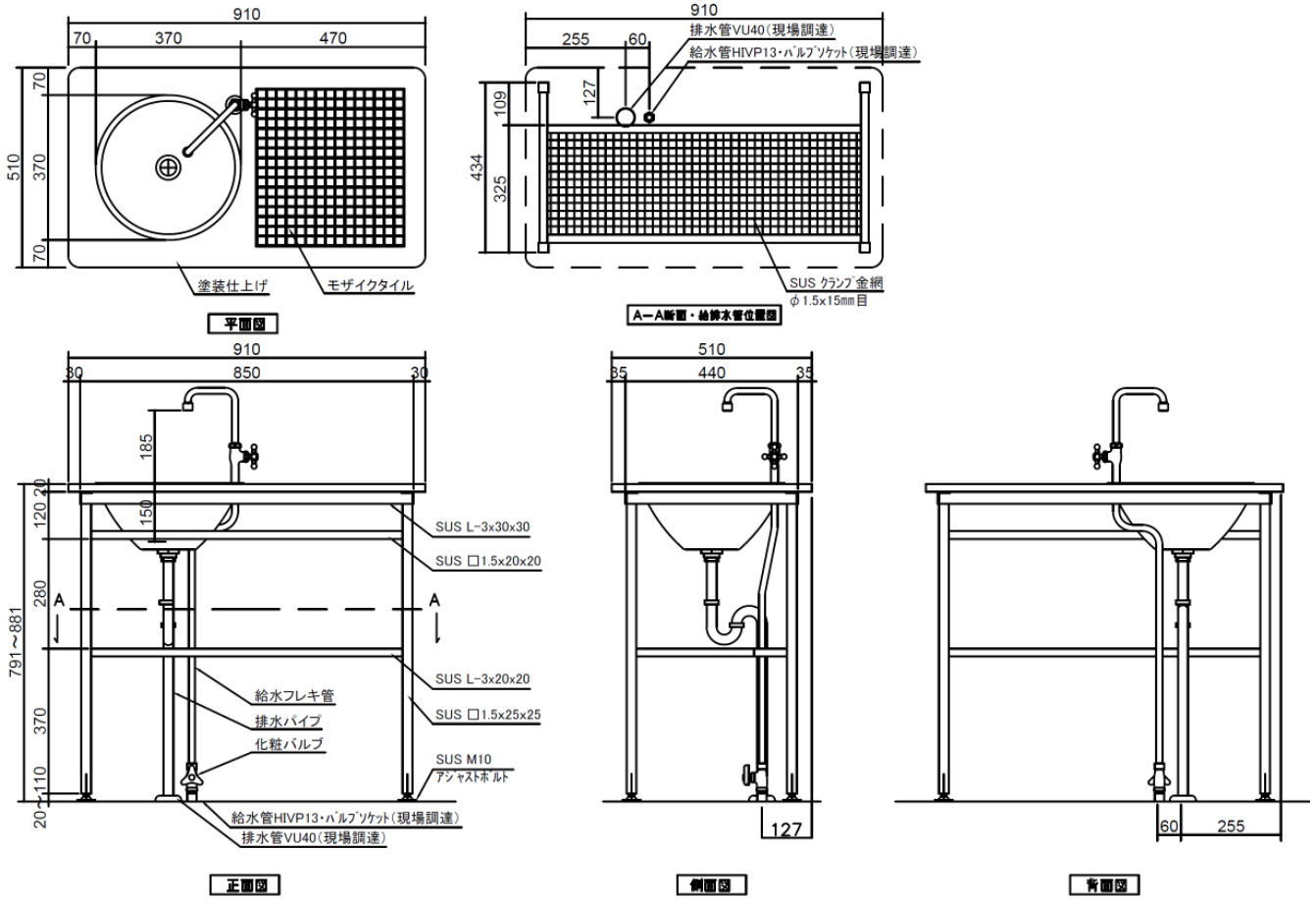
施工時の注意点

- 施工前に輸送中の破損がないことを確かめてください。
- 陶器に対するネジを締めすぎない。また、前板、側板等 GRC 製の板材に対してもネジを締めすぎないでください。
- 施工後に漏水検査を必ず行ってください。
- 天板を持って、持ち上げたり、移動させたりしないでください。破損する恐れがあります。移動するときは、フレームを下から持ち上げておこなってください。
- 商品が動いたり、転倒したりすることがないように、アンカーボルト等でしっかりと固定してください。
- 給排水管の施工位置は、シンクのタイプによって異なります。次ページからの施工図でご確認ください。
- 排水管の太さは、シンクのタイプ、排水管の仕様によって異なります。

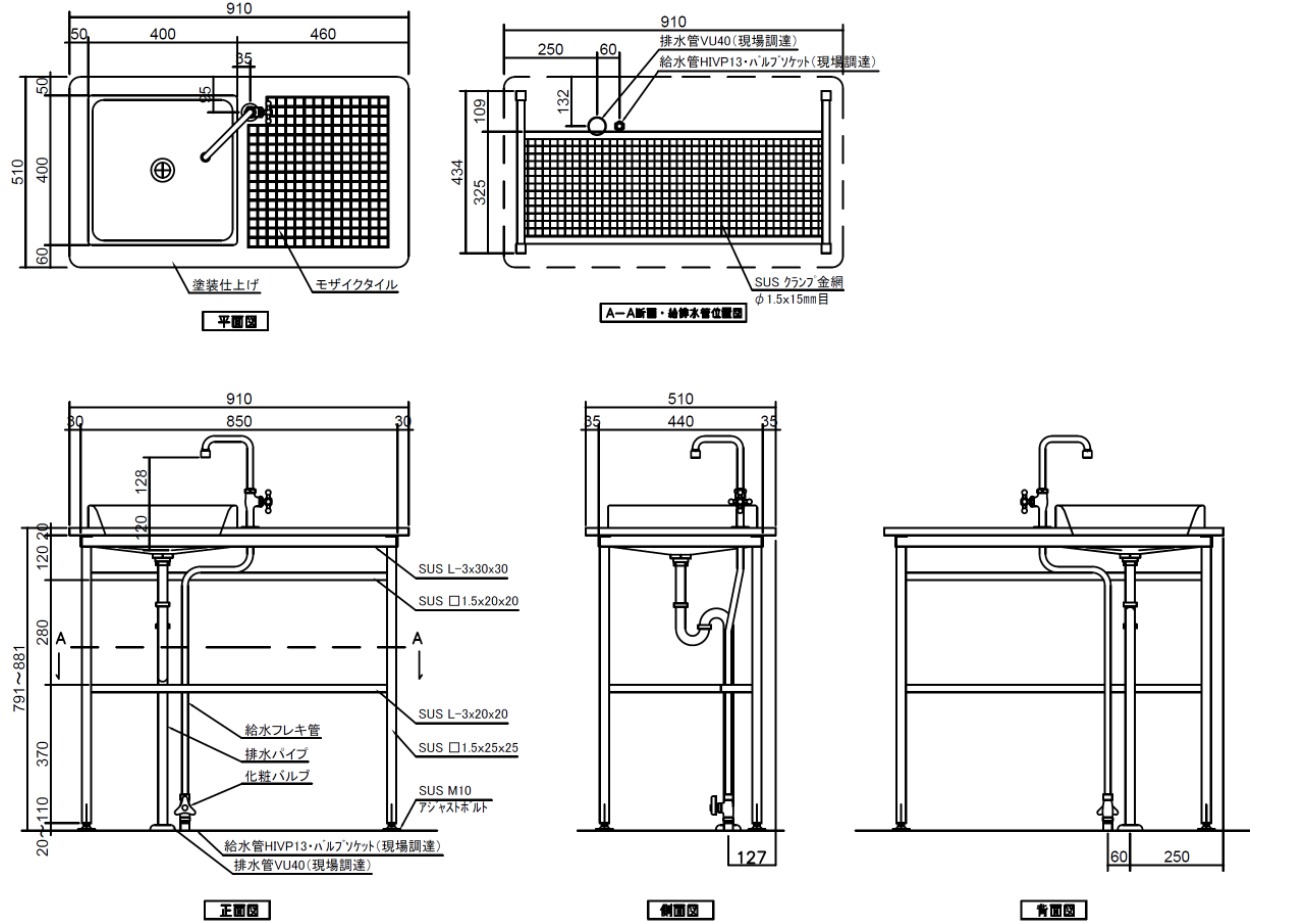
ラージシンク、ステンレスシンクのパイプ排水仕様は必ず VU50 を使用してください。（その他の場合は VU40 です。ホース排水仕様については、すべて VU40 を標準としますが、VU50 にも対応しています。）

ガーデンシンク クラッシュ シンプルタイプ標準施工図 ※図はパイプ排水仕様ですが、ホース排水仕様も給排水施工位置は同じです。

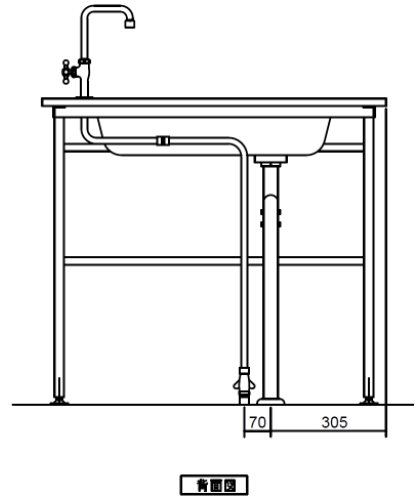
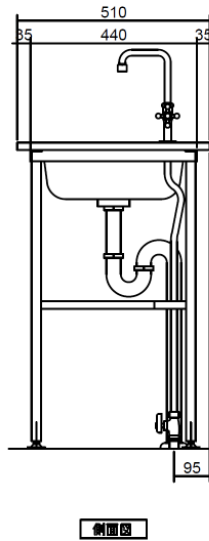
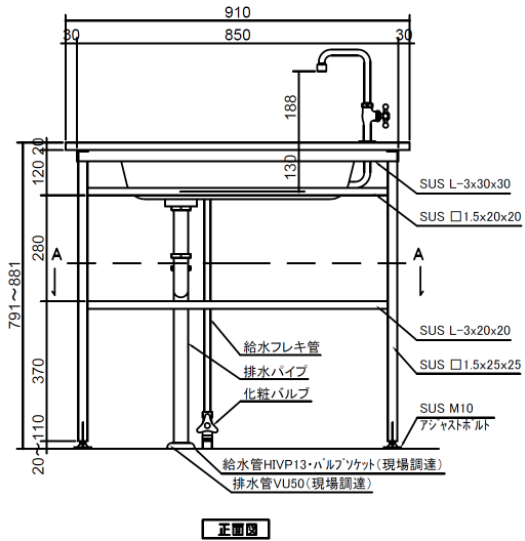
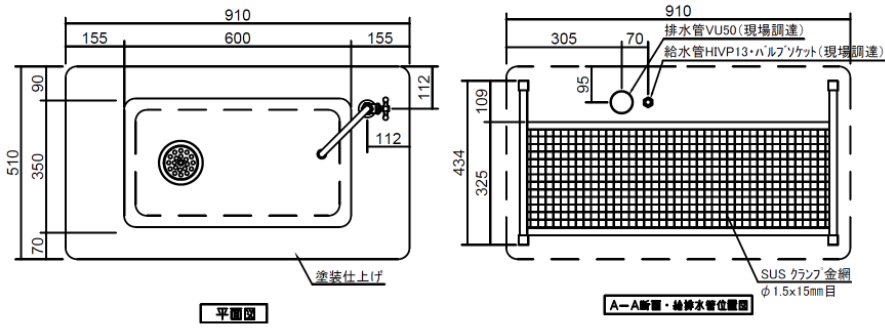
コーンシンク(タイル天板) ※グローリーシンク、丸型ステンシンクの給排水施工位置はこの図と同じになります。



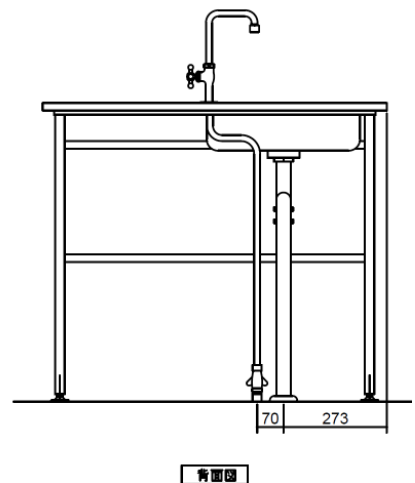
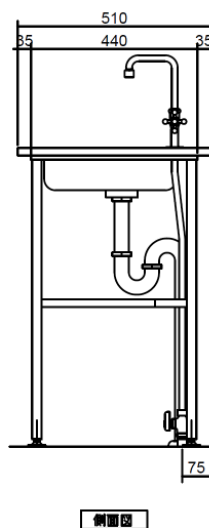
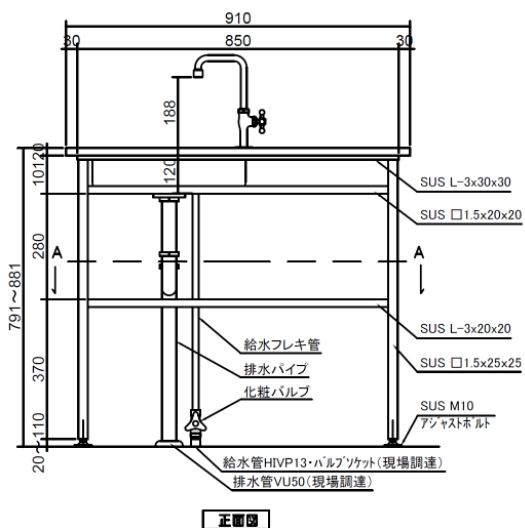
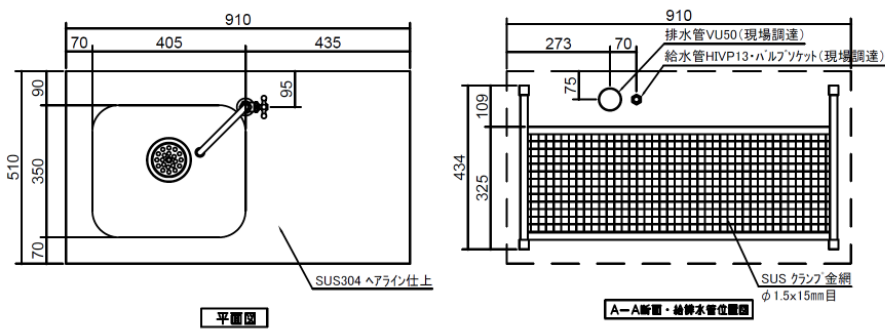
ベッセルシンク(タイル天板)



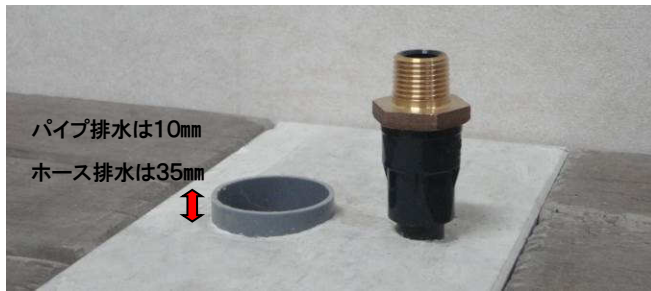
ラージシンク(天板一体)



ステンレスシンク(天板一体)



施工要領



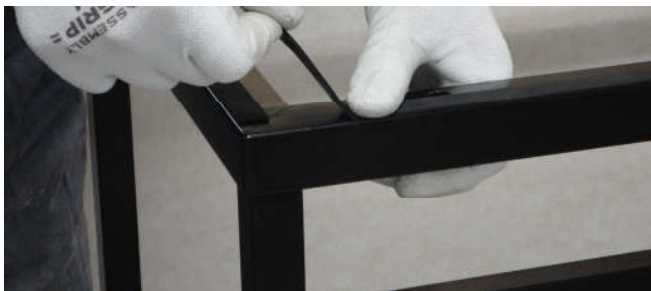
- ①バルブソケットをつけた給水管(HIVP-13)と、排水管(VU40、[ラージシンク・ステンレスシンクのパイプ排水仕様は VU50](#))を施工図の位置に出しておきます。(現場調達品)
給水管は任意の高さ。**排水管の高さは床面から**
パイプ排水仕様の場合 10mm
ホース排水仕様の場合 35mm とします。
シンク施工直前にフラッシングをして、給水管内の異物を洗い流しておきます。



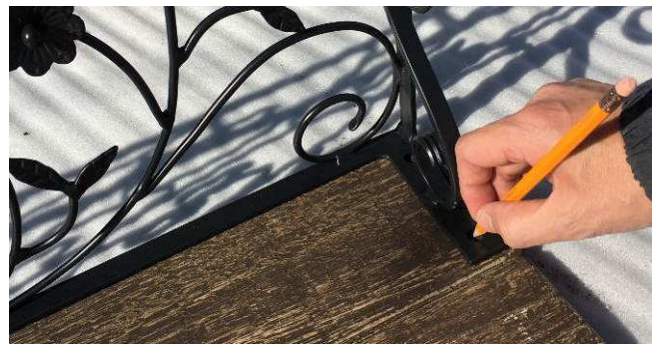
- ②養生シートの上にフレームを寝かせて、脚の底面からアジャストボルト4本をねじ込みます。



- ③フレームを施工位置に置き、傾斜、凹凸、使用する方の身長(身長÷2+5cmが標準)に合わせて、水平になるようにアジャストボルトのねじ込み量を調整します。[付属のアジャストボルト押さえ金具](#)とアンカーボルトで固定します。(アンカーボルトは十分な荷重に耐えられるものを、施工する床材に応じて現場で手配してください。本体が動いたり、転倒したりすることがないように、しっかりと固定してください。)



- ④天板を乗せる前に、緩衝テープをフレームの上面に貼りつけます。穴をふさがないように外側いっぱい貼りつけます。(ステンレスシンクは貼りません。)



- ⑤天板は形状によって、破損しやすい箇所がありますので、丁寧に取り扱いください。オプションのチェックパネル、ロートアルミパネルを取り付ける場合は、養生シートの上で天板にパネルを置き、穴位置にしるしをつけ、天板の下に板などを当てて、8~10mmのコンクリートドリルで穴を開けておきます。(先に細いドリルでガイド穴を開けると正確に穴が開けられます。)



- ⑥天板をフレームに乗せます。フレームの下側からゴムワッシャーをかませた、ブラッシュクリップを天板の3か所の穴に差し込み固定します。ブラッシュクリップの入りが浅いときはゴムワッシャーをはずしてください。

ステンレスシンクの場合は、フレームの上面に強力弾性接着剤を写真のように塗布し、すぐにシンクをかぶせて圧着します。(当社取扱の「[ウルトラ多用途 SU](#)」(25ml)を推奨します。)

上面に1周ぐりと線状に塗布します。約15ml程度で接着できます。厚く塗りすぎないようにしてください。ウルトラ多用途 SUは23°Cのとき約4分で固定します。(完全硬化1日)



- ⑦天板の穴にタップを取り付けます。



⑧床面から出しておいた給水管に化粧バルブを取り付けます。オプションのホース用分岐タップを取り付ける場合は、化粧バルブの上に取り付けます。(ゴムパッキンがない接続箇所はシールテープを右巻きに7~8回巻きます。化粧バルブのデザインが写真と異なる場合があります。ご了承ください。)



⑨給水管側と天板に取り付けたタップをフレキ管で接続します。フレキ管は手で曲げられますが、半径 50mm以上の緩やかなカーブで曲げます。また、継手の近くでは曲げないようにしてください。水漏れの原因になります。ラージシンクの場合は、フレキ管用ニップルで、フレキ管を接続して延長してください。左写真のようにフレキ管の長さが余ったときは、適当な長さでカットし、ツバ出し工具を用いてツバ出しを行い調整すると右写真のようにすっきりと仕上がります。

ホース排水仕様の場合



⑩シンクを天板の穴に入れ、排水金具を取り付けます。排水金具に排水パイプを差し込み、締め付け金具で抜けないように締め付けます。(丸型ステンシンクは排水金具付きで納品されます。)



⑪反対側の先端をハサミ等でカットし、防臭キャップに差し込みます。臭いが上がってこないようにするため、排水管を一周ねじり、床面から出しておいた排水管に固定します。(写真のフレームは仕様異なります。)(次⑫へ)

パイプ排水仕様の場合



⑩⑪床面から出した排水管にクリーンパッキンを取り付けます。シンクを天板の穴に入れ、排水金具を取り付けます。写真のように排水パイプ(Sトラップ)を接続し、クリーンパッキンに3cmほど差し込める長さに排水パイプの下端をカットし、隙間がないように接続し、ワン座金をかぶせます。(ワン座金はあらかじめ排水パイプに通しておきます。)



⑫シンクの周囲をマスキングテープで養生し、コーキングします。ベッセルシンクはシンクに付属の取扱説明書をご覧ください。ベッセルシンク付属の排水金具のゴム栓についているチェーンは使用しませんので取り外してください。ベッセルシンク、グローリーシンク、コーンシンク、丸型ステンシンクは、付属のゴミ取り網を排水金具に落とし込みます。





⑩オプションのパネルがある場合は、付属のボルトナットで取り付けます。最後に、通水し、漏水がないか確認します。

注意！

天板を持って本体を移動したり、持ち上げたりしないでください。移動する場合は、フレームを下から持ち上げてください。



スツール兼用棚の組立方法

- ①鋼材の上面に緩衝テープを固定用穴がふさがらないように、貼りつけます。
- ②座板を乗せ、裏側の穴位置を合わせ、下からワッシャーとゴムワッシャーをかませたボルトで固定します。強く締めつけすぎないように注意してください。